

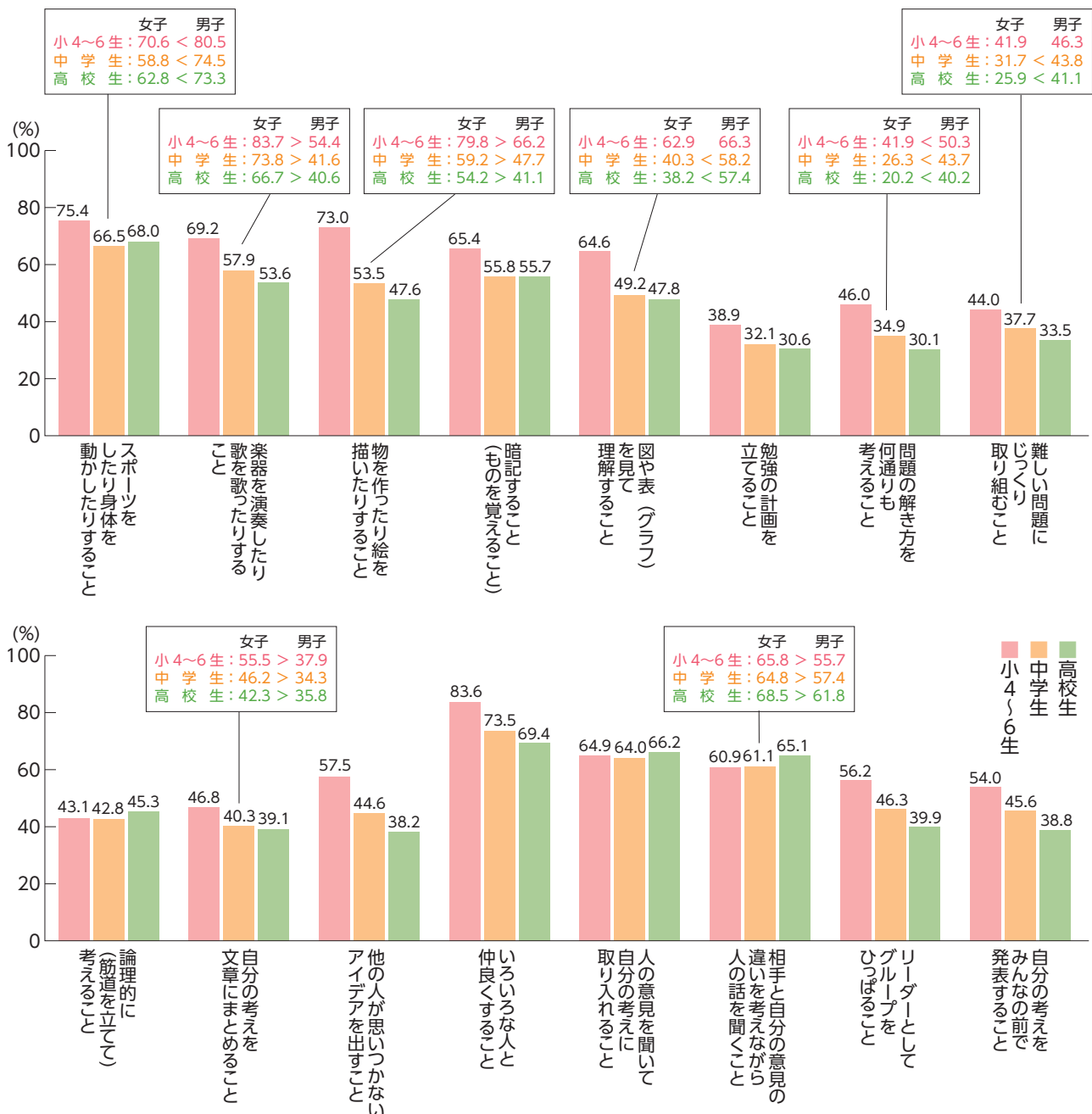
学校段階が上がるにつれて、さまざまなことを「得意」と感じる子どもが減る傾向にある

学校段階が上がるにつれて、「暗記」「図表理解」「難問に取り組む」などの学習関連の項目だけでなく、「楽器を演奏」「物を作ったり絵を描く」や「文章にまとめる」「アイデアを出す」「いろいろな人と仲良くする」「みんなの前で発表する」といった項目でも、「得意」と感じる子どもの割合は減る傾向にある。性別で差が大きいものを見てみると、男子が高いのは「スポーツ」「図表理解」「解き方を何通りも考える」「難問に取り組む」、女子が高いのは「楽器を演奏」「物を作ったり絵を描く」「文章にまとめる」「人の話を聞くこと」である。



あなたは次のようなことが得意ですか、苦手ですか。

子ども 図5-1 得意・苦手(学校段階別)



注1 「とても得意」+「やや得意」の%。

注2 「勉強のやり方を自分で考えること」「わからないことや知らないことを調べること」「いろいろな情報から信頼できるものを選んで使うこと」「自分で決めて行動すること」「グループがまとまるように協力すること」「英語を使って人と話をする事」は省略した。

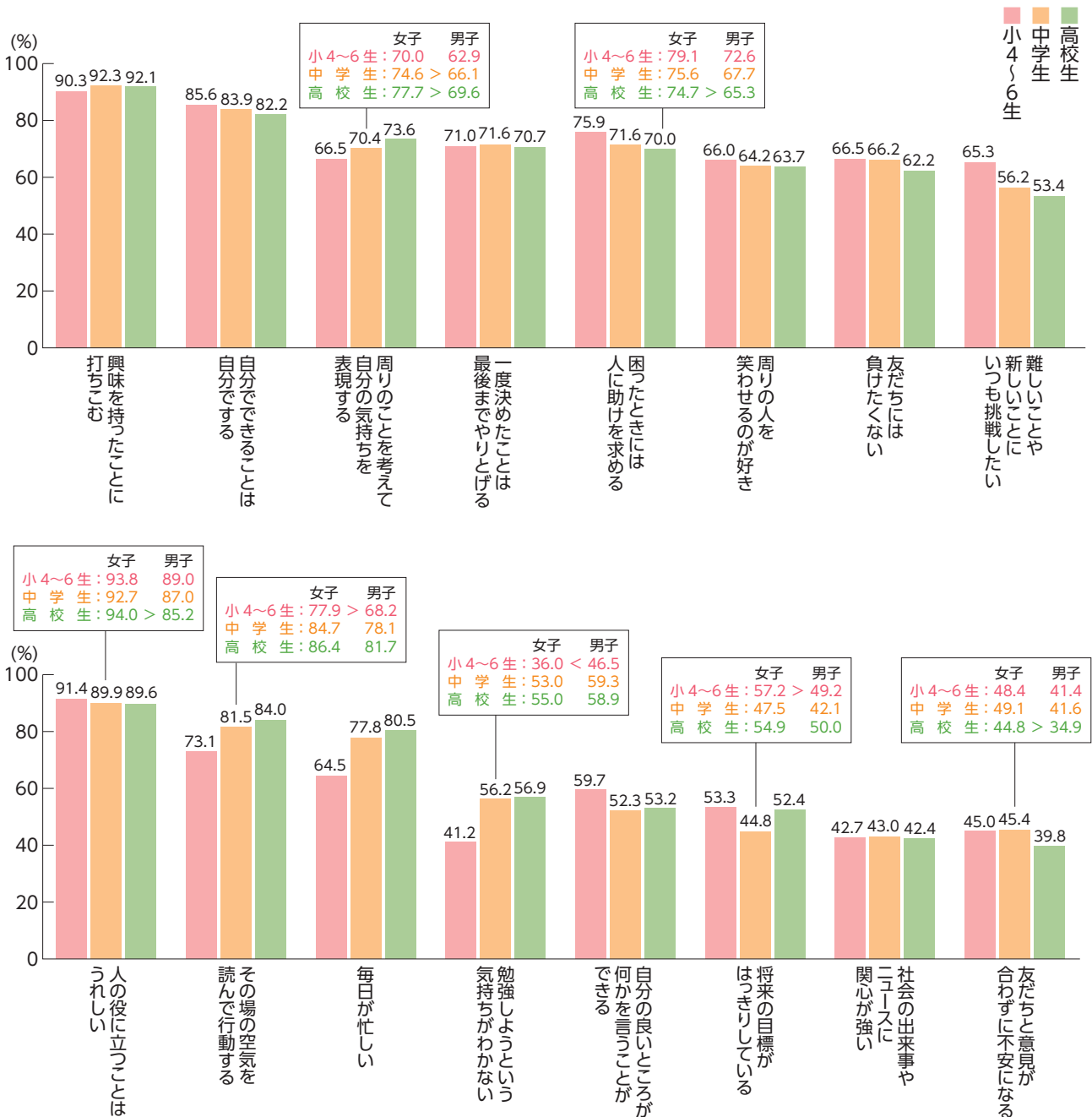
注3 いずれかの学校段階で、性別によって10ポイント以上差がある場合に、性別の数値を示した。

学校段階が上がるにつれて多忙感が増す一方で、5割以上の中学生・高校生が「勉強しようという気持ちがわからない」と感じている

「勉強しようという気持ちがわからない」「毎日が忙しい」「その場の空気を読んで行動する」に「あてはまる」「とてもあてはまる」+「まああてはまる」、以下同様）と回答した子どもの割合は、小4～6生より中学生・高校生の方が高い。性別でみると、女子の方が「周りのことを考えて自分の気持ちを表現する」「その場の空気を読んで行動する」「友だちと意見が合わずに不安になる」といった人間関係についての項目で、男子よりも「あてはまる」の割合が高い。

Q あなた自身のことについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

子ども 図5-2 自分自身についての認識(学校段階別)



注1 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。
 注2 「失敗しても自信を取り戻せる」「失敗したら何が悪かったのかを考える」「たいていのことは何とかかなると思う」「毎日が楽しい」「これからの「日本」がどうなるか不安だ」「入るのが難しいと言われる高校(大学)に入りたい」は省略した。
 注3 いずれかの学校段階で、性別によって8ポイント以上高い場合に、性別の数値を示した。